



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1991, 56(5): 597-607

ISSUE DATE:

1991-08-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/94582>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成3年8月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第56巻 第5号

ISSN 0525-2997

vol.56 no.5

物性研究

1991 / 8

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は *Progress, Journal* の投稿規定に準じ、立体“□”、イタリック“—”、ゴシック“~”、ギリシャ文字“ギ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくいoとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv、†(ダガー)と+(プラス)、φとφとΦとΦ等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は *Progress, Journal* の投稿規定に準じ、立体“□”、イタリック“—”、ゴシック“~”、ギリシャ文字“ギ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくいoとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv、†(ダガー)と+(プラス)、φとφとΦとΦ等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

議 事 録

第9回物性専門委員会（第14期）議事録

日時 3月8日 13:30-17:00

出席者 長岡洋介、 安藤正海、 石井武比古、 遠藤裕久、 糟谷忠雄、
勝木 渥、 川村 清、 久保亮五、 小林俊一、 中嶋貞雄、
守谷 亨、 山田銹二、 山田安定、

[報告事項]

1. 学術会議報告（中嶋）

○国際対応

① I G B P etcの専門委員会は各期毎に組織し、期が変わると申請しなおしている。
研究者にとっては迷惑なので、対策が議論された。

② I U P A Pその他への対応について、学術会議のシステムがmatchしていないところがあるので、15期に引き継ぐにあたっての提言を第一常置委（1/22）で議論した。特別委枠が2つ残っているのでこれに対応するという意見もあったが各研連が2%ずつ定員を出して、横断的研連を構成することになりそうである。そうなると物研連から1~2人の拠出をする必要がある。

○93年度の学術会議主催国際会議は提案がメ切られた。われわれに関係するものではI U P A P総会と電波科学（中心は5部）が決まったが3/25運審で確定する。

○来年度概算要求は旅費など前年度並となった。

○Q：会員選出時期が近づいているが、地域代表的会員をどう考えるか。

A：7部の地域医師研連、5部の基礎工学研連などがあり、全くなかったわけではない。ただし、後者の存続にはnegativeな雰囲気がある。

○国際問題懇談会（科学技術会議の下部組織）でメガサイエンスについて議論されている。

2. 物性研報告（守谷、石井）

○守谷所長は3月末で定年退職する。新所長は竹内伸氏が予定されている。

- 物研連から「物性研究専用の大型計算機システム導入計画推進について」という要望書をだしていただき、それにもとづき概算要求していきたい。
- 大型ハドロン計画について平成4年に、新研究所スタートの要求が出ている。これが認められたとき、物性研が使っている田無のSORがどうなるか、という問題が浮上してきたので目下大学内部で審議中である。
- 第2回ISSP国際シンポジウム「酸化物超伝導体の物理と化学」が行われた。第3回は表面物理の中から選んで開催されることが決まってる。第4回以後のテーマは未定だが形態はflexibleなので、御意見をお聞かせいただきたい。
- ◎なお、新所長が物研連委員ではないため、今回はオブザーバーで出ていただくことにした。

2. 基研報告（長岡）

- 建物が宿題になっていた。いろいろな点を考え、現在地に建て替え、その際、植物園の土地も使うことで理学部と折衝中である。平成4年概算要求に出せそうなところまで進展している。
- 合併後、運営その他を変える必要が出てきた。先週の研究部員会で以下の点について議論がまとまりかけてきた。
 - ・運営委員の学内委員枠をなくす。
 - ・任期つき所員だけでは支障もある。例外的には運営委員会の決議により任期更新ができるようにしたい。
 - ・大学院については、旧理論研にあったが、後継者養成に支障が出ることも考えられるので部門数よりかなり少ない定員の独立専攻を作るという方向で次回6月の研究部員会議で討議する。
- YKISについて、91年は低次元場の理論と物性という題でSanta BarbaraのITPと共催する。来年以降1年おきのペースがよいという意見があって、日本でやらない年はSanta Barbaraでやるセミナーを共催するということも考えられている。

4. 物性グループ（長岡）

物性研究所共同利用施設専門委員会委員の選挙結果（物研連から推薦）

武田三男、都 福仁、佐藤正俊、藤田敏三、高山 一、池田宏信、永田一清

基礎物理学研究所研究部員（物性委員会から推薦）

佐野和博、福山秀敏、大川房義、張紀久夫、黒田義浩

5. 物理学研究教育調査小委員会（長岡）

報告を準備中で明日の本会議で報告の予定である。

審議事項

1. 物性研究専用の大型計算機システム導入計画推進について守谷物性研所長より「物研連から外部に出すには運審の了承が必要でそれを明日の全体会議に提案してほしい。」という発言があり以下のように議論した。

○他の研究所もこの程度の施設および更新計画がある。物性研および物性委員会の要望だけでも出来るはず。物研連や学術会議が個々の研究所で出来ることまで立ち入るのはどうか。

○研究者グループからの要請が物性研に出てきたもので、物性研から出てきたものではない。

○この程度のものまで物研連や学術会議がいわなくてはならないのは困ったことである。

○改3号炉は、関連機関が多かったので意味が違った。

[結論]「物性グループの中の研究グループから物研連へスーパーコンピュータ設置支持の要望があつてそれを物性研におくこととなった」ということを明日の委員会に出す。

2. 物性研究将来計画WG（糟谷）

○なかなか大変な問題でWGの中でまとまっていない。

金森委員会の報告に実質的内容をもりこむこと、物性研移転にからんだ物性研将来計画の二つを中心に議論したいと思ったが、WGとしてのまとまったものは出ていない。難しい問題が沢山あつて実りのあるものが出てこなかった。前回の専門委員会では時間がなくて議論出来なかったもので、今日提案しようと思い、本日午前にWGの会合をもった。考えをまとめるために外部の意見もきいたが、藤木氏から地方計画をどう位置づけるかという意見があっただけ。以上の経緯をふまえて、どうまとめるか議論し、以下のような意見がでた。

○予算の上では同じように中小企業だが、化学はまとまりがよい。

- 物性はまとまりが悪く、大型計画におされている。
- 他省庁研究所は豊富な予算を持っている。物性は工学部に似てきた。
- こういうtypeの委員会では手におえない。
- 各地の特色ある研究の評価をしたいが、予算と人の裏づけを行うために、総合Aを申請するという意見もある。
- 大学が若い人に魅力ある体制を作るべきだがそれはわれわれの中の問題でもある。

以上の報告にもとづき討論に移った。

- 日本の物性研究の危機か、大学における物性研究の危機か。
- 危機的状況ながら何をやったらよいのかがわかっていない。若い人がもえないのは当然。
- 各地の研究評価をやって芽として面白いものが周知されたら、大きなところにとられる心配はないか。
- 芽を育てるという目的もある。
- 危機感を裏づける調査は必要だ。
- 講座研究費や科研費がどう使われているか、中味を見てもないと分からないところもある。
- 生物・地球が高く評価されている状況があり、物性に限らず物理学全体でも危機感がある。
- 新しいアイデアを物理の研究者が打ち出すこと
- Technologyがらみは予算がつきやすいというが、役に立たない分野に予算がつかないとTechnologyがらみもだめ。
- IBMとBellもadministrationの連中は6ヶ月先の株価を気にしている。日本の経営者を見ろと言っている。
- 基礎研究のための基金を作ってはどうか。

〔結論〕伊達WGも継続するが糟谷WGの議論の継続を期待したい。

プレプリント案内

[京都大学 基礎物理学研究所]

- 8-1 O. I. Gerasimov, T. Ya. Shvets
Electron spectra of adatomic structures
- 8-2 V. M. Loktev, E. M. Tatarenko
Ordered superstructures of Oxygen ions
in $\text{La}_2\text{MeO}_{4+\delta}$ (Me=Cu, Ni)
- 8-3 V. A. Nastasyuk, I. M. Tkachenko, M. N. Chesnokov
Collective properties of Heterogeneous plasma
- 8-4 Yu. B. Gaididei
Nonlinear theory of charge transport through
channels of biological membranes
- 8-5 V. G. Bar'yakhtar, V. M. Loktev
Electron spectrum and the magnetic properties of
high-Tc superconductors as antiferromagnetic
metals
- 8-6 A. S. Davydov
Nonlinear model of superconductivity of ceramic
oxides
- 8-7 Bruce E. Shaw
Moment spectrum in a simple model of an earth-
quake fault
- 8-8 J. S. Langer and C. Tang
Rupture propagation in a model of an earthquake
fault
- 8-9 M. S. Hussein
The role of the pygmy resonance in the synthesis
of heavy elements with radioactive beams
- 8-10 A. Villani
Conceptual change in science and science education

- 8-11 J. Duarte Jr., P. R. Peduto and S. Frota-Pessoa
Spin-polarized first-principles LMT0-ASA calculations in real-space
- 8-12 D. I. Khomskii
Orbitals, correlation, valencies in high Tc-superconductors
- 8-13 Miguel Lagos
Superconductivity in doped antiferromagnets
- 8-14 Ya. I. Delchev, R. L. Pavlov, I. Zh. Petkov and Ch. I. Velchev
A study of the kinetic energy density functional for atoms
- 8-15 Ivan Barvik and Ladislav Nedbal
Some remarks about a role of a back recombination in RC primary processes
- 8-16 C. W. Lung
The crack energy absorptive capacity of composites with fractal structure
- 8-17 Marcelo D. Grynberg and Horacio Ceva
Interacting-fermion approximation in the two-dimensional ANNNI model
- 8-18 R. Lupini and S. Siboni
Rigorous computation of period for a point vortex in planar inviscid motion around a profile of Żoukowski's type
- 8-19 J.-M. Ghez and S. Vaienti
Rigorous wavelet analysis for multifractal sets
- 8-20 S. Vaienti
Ergodic properties of the discontinuous sawtooth map
- 8-21 J. Marion
Induction - Unitarization process for non-locally compact topological groups

- 8-22 Nadine Aubry, Régis Guyonnet and Ricardo Lima
Spatio-temporal symmetries and bifurcations via
the Bi-orthogonal decomposition
- 8-23 Dai Xianxi
On the functional integral approach in quantum
statistics - I. Some approximations
- 8-24 C. W. Lung
The pull-out energy of composites with fractal
structure
- 8-25 Sudeshna Sinha and Ayşe Erzan
Comment on "dissipative transport in open systems
: an investigation of self organized criticality"
- 8-26 A. Gross, Y. Chiba and W. Brenig
Vibration dynamics in scattering of NO/Ag :
adiabatic versus nonadiabatic processes
- 8-27 Marc-Thierry Jaekel and Serge Reynaud
Fluctuations and dissipation for a mirror in the
vacuum
- 8-28 R. Friedberg and H. S. Zhao
Short-range coulomb screening in a dielectric
crystal
- 8-29 N. Éber, L. Bata, G. Scherowsky and A. Schliwa
Linear electromechanical effect in a polymeric
ferroelectric liquid crystal
- 8-30 M. V. Kozlovsky, K. Fodor-Csorba, L. Bata,
J. Szabon and S. Holly
A chiral side-chain polymer with layered structure
- 8-31 K. Fabricius, U. Löw, and K.-H. Mütter
A complete solution of the two-dimensional anti-
ferromagnetic Heisenberg-model on small lattices
- 8-32 C. Godrèche and J. M. Luck
On the possibility of indexing the diffraction
spectrum of a non-pisot self-similar structure

- 8-33 Y. Avishai and D. Berend
Transmission through a Thue-Morse chain
- 8-34 Paul G. Higgs and Bernard Derrida
Stochastic models for species formation in
evolving populations
- 8-35 Y. Avishai and J. M. Luck
Quantum percolation and ballistic conductance on
a lattice of wires

〔九州大学理学部 川崎研究室〕

No	Date.	Title	Author
2430	03.14	A Many-Body Stochastic Approach to Rotational Motions in Liquids: Complex Decay Times in Highly Viscous Fluids.	A.Polimeno J.H.Freed
2431	03.19	Correlation Functions In Liouville Theory	M.Goulian M.Li
2432	04.03	Statistical Property of Electrical Resistances in a Both-infinite Fibonacci Lattice	H.Kubo M.Goda
2433	04.03	A New Class of Disordered Systems. I ...A Modified Bernoulli System with Long-Range Structural Correlation..	M.Goda H.Yamada Y.Aizawa
2434	04.03	A New Class of Disordered Systems II ... Transmission of Electrons in a Modified Bernoulli Systems ...	H.Yamada M.Goda Y.Aizawa
2435	04.03	Consequences of Time-Reversal-Symmetry Violation in Models of High Tc Superconductors	B.I.Halperin J.M.Russel F.Wilczek
2436	04.03	Superroughening: A new phase transistion on the surfaces of crystals with quenched bulk disorder	J.Toner D.DiVincenzo
2437	04.03	Adsorption on Stepped Surfaces: A Monte Carlo Simulation	E.V.Albano K.Binder D.W.Heermann
2438	04.03	Theory of Paramagnetic and Critical Spin Fluctuations in Simple Magnets	S.W.Lovesey A.Cuccoli V.Tognetti
2439	04.03	Longitudinal Spin Dynamics in Ferromagnets Including Dipolar Forces	S.W.Lovesey
2440	04.03	Static and Dynamic Susceptibilities of Ferromagnets Calculated with Spin Wave Theory Including Dipolar Forces	A.W.Lovesey K.N.Trohidou
2441	04.03	Theory of Magnetic Photon Scattering: Total and Compton Cross-Sections for Circularly Polarized Hard X-Rays	S.W.Lovesey
2442	05.09	Hal Effect of Non-Interacting Electrons as a Fermi-Surface Property -Regorous Gauge Independent Formula in the On-Shell Form	M.Itoh
2443	05.27	Exact Dynamics of Highly Correlated Electrons in Two Dimensions	Y.Kuramoto
2444	05.27	Exactly Soluble Supersymmetric t-J-type Model with Long-Range Exchange and Transfer	Y.Kuramoto H.Yokoyama
2445	06.21	Feynman Rule of the Non-Equilibrium Process	R.Fukuda M.Sumino K.Nomoto
2446	06.21	Diagrammatical Study of the Non-Equilibrium Process -Model Calculation-	R.Fukuda M.Sumino

プレプリント案内

No	Date.	Title	Author
2449	06.25	How to escape a sawtooth	G.Troll
2450	06.25	Traveling Convection Rolls in a Binary Fluid Mixture	H.Yahata
2451	06.26	Bethe Lattice Spin Glass: The Effects of a Ferromagnetized Spin Glass Phase and External Fields II	J.M.Carlson J.T.Chayes J.P.Sethna
2452	06.27	Bethe Lattice Spin Glass: The Effect of a Ferromagnetic Bias and External Fields I: Bifurcation Analysis	J.M.Carlson J.T.Chayes L.Chayes
2453	06.27	Crystal Growth by Instability of Disorder Material Near the Crystal Surface	H.Furukawa
2454	06.27	Crack Propagation Velocity in Two Dimensional Truncated Harmonic Potential System	H.Furukawa
2455	06.27	Phase Separation by Directional Quenching and Morphological Transition	H.Furukawa
2456	06.27	A Quantum Fluids Approach to Frustrated Heisenberg Models	P.Chandra P.Coleman A.I.Larkin
2457	07.02	>Chaotic Spectroscopy	E.Doron U.Smilansky
2458	07.02	Collective Excitations in Paramagnets: Confrontation of Theoretical and Experimental Results for Gadolinium	D.R.Westhead A.Cuccoli S.W.Lovesey
2459	07.02	Theory of Neutron Scattering by Atomic Electrons: jj-coupling scheme	E.Balcar S.W.Lovesey
2460	07.02	Theory of Dynamic Response Functions of Periodically Modulated Physical Systems	S.W.Lovesey G.I.Watson D.R.Westhead
2461	07.11	Muon Spin Relaxation in Ferromagnets (I) Spin-Wave Fluctuations	S.W.Lovesey E.B.Karlsson K.N.Trohidou
2462	07.11	Muon Spin Relaxation in Ferromagnets (II) Critical and Paramagnetic Magnetization Fluctuations	S.W.Lovesey K.N.Trohidou E.B.Karlsson
2463	07.11	Theory of Muon Spin Relaxation by Critical Fluctuations in Antiferromagnetic Salts	S.W.Lovesey

編集後記

日本の経済力は今や世界中でも有数の力を持つらしいが、それにつけても最近のバブル経済による金余り現象に伴う商社や金融機関のスキャンダルは誠に腹立たしいものである。日本の好況が永遠に続くはずもなく、浮かれずに今のうちに国家百年の計を立てて、社会資本の充実をはかって欲しいものです。それにつけて思うことはこの機会に世界中の人が楽しめるような科学博物館を日本に建設してはいかがかと思う。私は博物館に行くと結構一日つぶすことになるので、暇をみつけて行くと言うよりはかなり好きなことも事実である。ミュンヘンのドイツ博物館、シカゴのフィールド博物館や科学技術館、サンフランシスコのExploratorium（なんと訳すのかちょっとわかりませんが実験装置を自分自身で動かしてみても自然の真実をExploreさせると言う意味）など大変印象深く、科学の文化遺産を一般社会に伝える意気込みと情熱が伺えます。それに比べて上野の国立科学博物館や大阪市立科学館（中之島の阪大の跡地に最近出来た）など上記のものに比べて見劣りしますし、既存の科学博物館にも多くの不満があります。特に次のような事が博物館を魅力的なものにするためには重要なポイントではないかと思われます。まずは、出来ることならレプリカや模型ではなく最大限、本物を展示して欲しい。本物の持つ実在感はそれだけで迫力があり見る人に強い印象を与えます。つぎに、子供からはては専門家までが使える広いニーズに応えられるものが欲しいものです。世界中の産業スパイが溢れるぐらい中身の濃さがあればおもしろいものになると思うのですが。それから、最近はやりのテーマパーク的要素を博物館も取り入れればよいと思います。ディズニーランドは確かに大人も子供も楽しめます。博物館に乗物とスリルがあってもいいのではないのでしょうか。最後に博物館にも一流の研究部門を付けるべきです。このことは国立民族学博物館などの成功例もあり、博物館の充実には長い年月が必要であることを考え合わせると研究部門の充実は博物館建設にとって重要なことだと思えます。科学は人類の知的文化遺産であることを思えば、国も研究者ももっとこの伝達に心をくばってもいいのではないのでしょうか。世界に誇れる科学博物館の実現を望みたいところです。

各地編集委員を永年勤めていただき物性研究誌編集に尽力いただきました北海道大学の阿波 克之氏が本年三月に御逝去されました。ここに謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

(T. M.)

物 性 研 究 第56巻第5号 (平成3年 8 月号) 1991年8月20日発行

発行人 小 貫 明 〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和堂印刷所 〒606 京都市百万辺交点上ル東側
TEL (075) 721-4541~3

発行所 物性研究刊行会 〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

年額 15,600円

会員規定

個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
計	8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
(振替貯金口座 京都1-5312) (現金書留は御遠慮下さい)
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075) 753-7051 722-3540

物性研究 56—5 (8月号) 目次

○特別寄稿

解説：ハバード模型の量子モンテカルロ・アルゴリズム

.....羽田野直道..... 459

○量子スピン系の対角化プログラム TITPACK Ver. 2

.....西森 秀稔..... 494

○修士論文 (1990年度)

半導体 - 超伝導体接合での超伝導近接効果に対する光伝導の影響

.....小新堂 透..... 566

○議事録

第9回物性専門委員会(第14期)議事録..... 597

○プレプリント案内..... 601

○編集後記..... 607

物性研究 56—5 (8月号) 目次

○特別寄稿

解説：ハバード模型の量子モンテカルロ・アルゴリズム

.....羽田野直道..... 459

○量子スピン系の対角化プログラム TITPACK Ver. 2

.....西森 秀稔..... 494

○修士論文 (1990年度)

半導体 - 超伝導体接合での超伝導近接効果に対する光伝導の影響

.....小新堂 透..... 566

○議事録

第9回物性専門委員会(第14期)議事録..... 597

○プレプリント案内..... 601

○編集後記..... 607